

【温室効果ガス削減のための基本方針】

カゴメグループは安全な原材料を調達し、自然の恵みを活かしたものづくりに取り組んでいます。このため、事業の最大のリスクを原材料調達の途絶と考えています。地球温暖化による大型台風や暴風雨などの異常気象は、原材料産地に大きな被害を及ぼします。このリスクを回避し、将来にわたり事業活動を継続するために、パリ協定を率先して遂行し、温室効果ガスの排出量削減に積極的に取り組んでいます。

■目標

2050年までにカゴメグループの温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指して、2030年に向けた温室効果ガス排出量の削減目標を2018年に策定し、SBT（Science Based Targets）イニシアチブの認証を取得しました。なお、下記目標は温室効果ガスの排出量の削減を加速するために2021年に見直したものです。

項目	目標(2020年対比)	2020年度実績(t)
Scope1及びScope2	2030年度までに温室効果ガスの排出量を42%削減	143,524
Scope3	2030年度までに温室効果ガスの排出量を13%削減	1,315,239

Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）

Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3：Scope1、Scope2 以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

【温室効果ガス削減のために実施してきた具体的な取組や効果】

温室効果ガス排出量の削減に向けて、再生可能エネルギー利用（太陽光発電導入、再生可能エネルギー電源に由来する電力利用）、バイオマスエネルギー利用、および省エネ活動の推進に取り組んでいます。

■再生可能エネルギー利用

1. 太陽光発電の導入（2021年10月～）

2. 再生可能エネルギー電源に由来する電力利用（2023年1月～）

富士見工場の使用電力（年間7,748MWh）は自家消費型の太陽光発電と組み合わせる事ですべて再生可能エネルギー由来となり、同工場の二酸化炭素排出量を年間約3,000t(当工場排出量の約50%)削減しております。



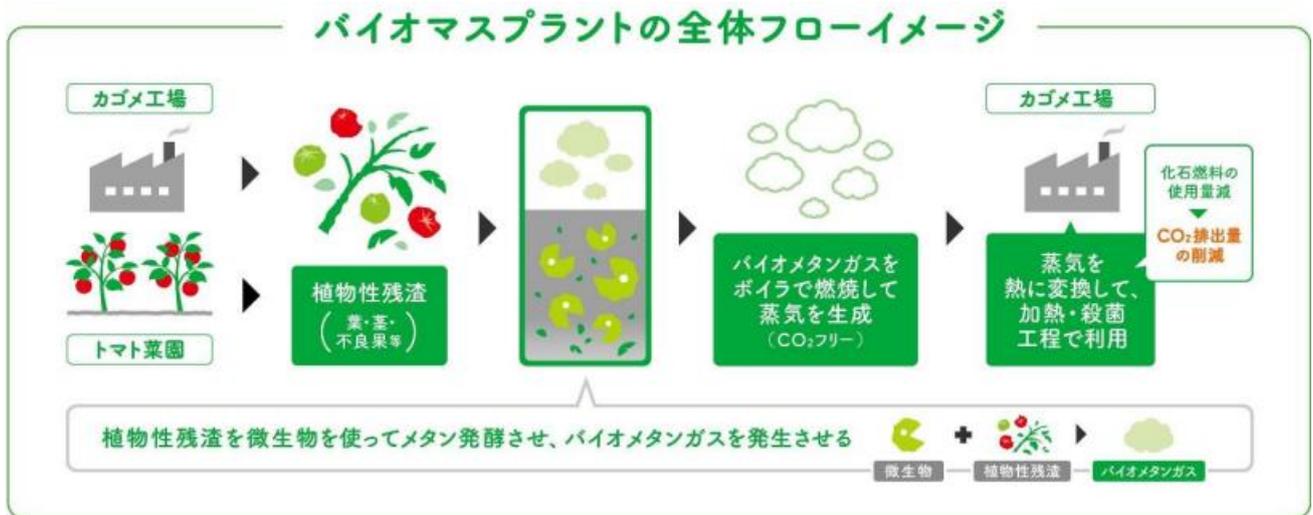
富士見工場外観



太陽光発電パネルが設置された富士見工場

3. バイオマスエネルギーの利用 (2023年1月～)

2023年にバイオマスプラントを富士見工場に導入し、工場野菜を搾汁する際に出る植物性残渣や隣接する八ヶ岳みらい菜園の出荷できないトマト等を有効利用し、メタン発酵を経てバイオメタンガスを生成し、工場利用するボイラーの燃料として活用しています。これにより富士見工場のCO₂排出量を年間約20t削減達成するとともに、熱エネルギーの再エネにも一歩踏み込むことが可能となりました。



■省エネ活動の推進

富士見工場では老朽化した設備を省エネ仕様の設備への更新、運転制御方法の効率化、エネルギー使用におけるムダやロスを削減する改善を積極的に取り組んでいます。

また、省エネアイデアを広く従業員から募集する省エネキャンペーンを展開しています。その中で優れたアイデアを表彰し、さらに切磋琢磨することを目的とした省エネ提案コンテストを実施し、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

区分	主な対策内容	実施年度 (年)	推計削減量 (t/CO ₂)
電力使用量削減	ガスヒートポンプ更新	2020	14.7
	水滴除去エアーの削減	2020～2022	18.3
	倉庫コンプレッサーの更新	2021	16.7
	野菜加工用冷蔵庫更新	2022	1.7
	野菜加工用コンプレッサー更新	2022	1.0
	倉庫コンプレッサーの運転制御変更	2022	18.5
	排水処理場制御変更による電力量削減	2022	9.4
LNG 使用量削減	洗浄方法の見直し	2020～2022	20.0
	蒸気配管へのラッキング	2020～2022	28.2